

2017JNP東京支部 15周年記念撮影会報告

6/3～5の3日間「東京支部15周年記念撮影会」を福島県裏磐梯にて「新緑と水」をテーマに開催した。参加者は13名。



初日は、朝5時龍頭の滝駐車場に集合。つつじと龍頭の滝のコラボを撮影後、道路脇に咲くクリンソウの撮影を楽しみ、一路、次の撮影地・達沢不動滝に向かう。

集合地ペンション「かぶりこ〜ん」到着後、3日間の簡単なオリエンテーションを終え夕景撮影に出発。ガイドは、裏磐梯を熟知したペンション「かぶりこ〜ん」のオーナー八木さん。

夕景撮影は、小雨も降っていたため、猫魔スキー場方面入り口にある「クリンソウ咲く森」「苔生す溪流」そして、夜は夕食会。夕食会終了後は、八木さん撮影の「裏磐梯の春（4～5月）」をテーマとした作品の投影が行われ、明日から本格的に回る裏磐梯の魅力が紹介された。

第2日目、夜中の雨は小降りとなり、薄暗い中4時に出発。まずは、秋元湖付近の「しだの森」見たことも無い様な素晴らしい「しだの群生」、高橋さんの指導のもと撮影開始。この場所は「クマ出没注意」と言う事で森に入る前に爆竹でクマを威嚇。

一旦朝食のためペンションに戻り、その後、桜峠牧場手前の急な傾斜を登る「新緑と溪流、滝のある森」に入り撮影。さらに、昼食後、2年前の作品展で下川床

さんが出展した「バイカモ咲く小川」に行こうと言うことで、往復約2時間掛け、猪苗代湖付近・清水川へロケハン。残念ながら、バイカモは早かったが、場所の確認は出来、今後に期待。



夕景は磐梯山ゴールドライン途中にある「幻の滝」での撮影。残念ながら射光による虹は出なかったが、雄大な滝と新緑の作品がカメラに収まった。

いよいよ第3日目、朝3時八木さんの「星が出ている。支度が出来たらすぐに出発」の声。外に出ると雨も止み、星が出ていた。朝日も期待できるため秋元湖方面に急発進。ほんの少し朝焼けも見られ、雲の合間から日も射し撮影を楽しめた。秋元湖での撮影を終え、皆の要望で朝食前にもう一ヶ所・裏磐梯スキー場への途中にある「藻が浮かぶ湖沼」日が入ると新緑の葦が輝き、皆歓喜、夢中で撮影。あまりの感動でお腹も空き、ペンションに着くと直ぐに朝食。

今回案内された場所は、ガイドの八木さんの配慮で、私も今まで行ったことが無かった新たなスポットと

ころばかりであり刺激も多かった。ただ、ほとんどの撮影場所は「クマ出没注意」。新緑の森に入る前には必ず爆竹でクマを威嚇し、クマ避けの鈴を鳴らしながら撮影スポットに向かった。撮影を始めると皆クマのことを忘れ撮影に没頭。そんな時にもクマが出たらどうなっていたか？まずは、クマに出会わず良かった！！撮影中、鈴を鳴らし続けてくれた八木さんに感謝。

撮影終了後、朝食を終え、各自帰路についた。月山方面に向かう人、観音沼に向かう人、さらに、自宅に直行する人・・・。

ペンションの食事も美味しく、楽しい撮影会であった。

(文責：戸張 眞)

新たな仲間を迎えて

2017年総会以降、4名の方が東京支部の新たな仲間に加わりました。

- ・ 淵江昴喜さん：風景写真のベテラン⇒今後は、作品のさらなる完成度追求と新たなジャンルへの挑戦
- ・ 中島幸男さん：フィルムカメラを中心に撮影⇒今後は、作品完成度追求とデジタルカメラにも挑戦
- ・ 清水令子さん：花写真を中心に撮影⇒今後は作品の幅を拓げるべく風景写真にも挑戦
- ・ 早川 潔さん：国内・海外の山岳写真を中心に撮影⇒今後は、山岳写真の実績を活かし風景写真の領域拡大に挑戦

東京支部も徐々に仲間が増え、いろいろな活動が出来る様になって来ると思います。

当面、会員メンバー30名(現在26名)を上限とし、自由な雰囲気の中で、お互いに撮影技術の向上を図り、風景写真を楽しむ会を目指して行く予定です。

皆さんのお友達で風景写真・東京支部活動に興味のある方を是非ご紹介下さい。(文責:戸張)

東京支部に入会して

独りよがりの風景写真ばかりを撮っていたので、少しでも上手くなれたら良いなと思い、2017年5月に入会しました。

6月の定例研究会(6/10)に出席して、皆さんの力作に驚きました。山本一先生の的を得た助言に、なるほど!と何度も感心しました。私の作品では、自分で気が付かなかったポイントを指摘され、被写体の隅々までもっと注意を払わなければ駄目だと反省した次第です。回覧された写真を見て驚いたのは、ほとんどの方がデジタルだったことです。フィルムは私の他にもう一人の方だけでした。

懇親会にも参加しました。たまたま隣の席が高橋清さん。いろいろと写真の話を聞かせていただいた中で「君の写真は、何を撮りたいのか良く分からない。だから助言もできない。」と言われ、山本先生とは別次元のコメントに強烈なパンチを喰らった感覚でした。でも、酔っている高橋さんの言うことは話半分に聞け

ば良い、と親切に耳打ちしてくれた方がいました。後で撮影技術担当の副支部長と知って、確かに一理ある助言もあったな、と思い返しています。それから、私の名前を3回も聞かれその都度答えましたが、少しお酒に酔っていたのか、最後まで名前は覚えていただけなかったようです。

今後の定例研究会と懇親会、写真展などなど、楽しいことがたくさん続きそうで期待しています。

(文責: 中島幸男)

2017年第2回“定例研究会”開催!!

1. 日時: 2017年6月10日(土) 14:00~16:45
2. 会場: 写真弘社銀座
3. 講師: 山本一先生(JNP指導会員)
4. 参加メンバー数: 23名(含見学者1名)
5. 提出作品数: 150点

2017年6月10日、今年第2回目の定期研究会が山本一先生をお招きして開催されました。

今回の定例研究会は、参加メンバー22名に加えて見学者1名、提出作品数は総数150点という盛況でした。

次回の定例研究会は9月9日(土)です。

第2回“高橋清撮影術を学ぶ”開催!!

1. 日時: 2017年7月2日(日) 15:00~17:00
2. 会場: 写真弘社銀座
3. 講師: 高橋清さん
(東京支部副支部長・撮影技術担当役員)
4. 参加者数: 総数16名(会員12名、会員外4名)

去る7月2日(日)、第2回「高橋清写真術を学ぶ」が開催され、会員12名と会員外の方4名を加えた総勢16名が参加した。

今回も、予定のテーマを盛り込みつつ、高橋さんが撮影した過去3ヶ年7月~8月まで作品から約70~80枚を選定し、撮影地の紹介と撮影に当たったのポイントを中心に講義が行われた。

今回は、季節柄“つつじ”“アジサイ”“ししうど”“ニッコウキスゲ”“ワタスゲ”“百日草”等花のある

風景が多かった。因みに紹介された作品の撮影エリア、撮影場所は以下の通り。

- ・つつじ・・・長野県：鉢伏山、霧ヶ峰、車山、赤沢溪谷、美ヶ原高原、白樺平
- 群馬県：赤城山
- ・アジサイ・・・埼玉県：美の山公園
- ・ししうど・・・長野県：八島湿原、池のくるみ
- ・ワタスゲ・・・福島県：駒止湿原
- ・ひまわり・・・山梨県：明野
- ・百日草他・・・山梨県：花の都公園

講義は、第1回と同様一方的な話ではなく、適宜参加者からの質問、意見が出され高橋さんも個別に対応しながら和やかな内に進められた。

また、撮影に当たり注意すべき点として以下の様なアドバイスがなされた。

- ・花は広角を使い、手前の花を主題にすることで撮影者の個性が出て来る。
- ・なるべく花のつんだところを探す。
- ・画面の4隅（特に、下の隅）を丁寧に、無駄なく。

会員外の参加者からも参加して良かったとの評価を得、無事終了。その後懇親の場をいつもの「桃杏楼」に移し、本日の講義の感想、意見交換、撮影地情報等熱の入った写真談義・・・時間も忘れて、楽しいひと時を過ごした。

今回は、8月20日（日）、会場は、“中小企業会館”（写真弘社銀座より徒歩3分）。会員外の方も、参加可能です。是非、社友の方々をお誘い下さい。

（文責：戸張 真）

東京支部 第15周年作品展「秀麗彩美」開催準備

【スケジュール】

- 07/25(月) 出品予定作品フィルム or デジタルデータ、関係資料提出
- 07/25(月) 作品提出〆切り
- 08/19(土) 12:00～14:30 作品選定（山本先生他、富士フォトギャラリー銀座にて）
- 9月中旬 仕上がり確認（山本先生他、富士フォトギャラリー銀座にて）
- 11/09(木) 15:00～ フレームマン 作品展示作業
- 11/10(金) 10:30～ JNP 東京支部第15周年（2017年）作品展
- 11/16(木) 14:00～ 作品撤収

【応募要項】

★①応募形態及び留意点

- 1) 一人必ず「8～10点」を提出してください。
⇒（注1）
- 2) ポジフィルムおよびデジタルとも原板を2Lの大きさのプリントし提出してください。
⇒（注2）
- 3) 必ずポジおよび画像をチェックし、ピンボケやブレがないことを確認してください。
- 4) 特別な意図がない限り、極端なアンダーまたはオーバーな作品は避けてください。
- 5) 作品それぞれに題名をつけてください。
- 6) 作品提出にあたっては本部会員名簿（平24版P64～65「撮影姿勢について」「デジタル写真規則」を参照してください。

（注1） 応募作品の偏りを避けるため、出来れば8～10点の応募をお願いします。また、可能であればそれぞれの四季からの選択をお願いします。但し、季節感のない被写体をテーマとされている方はこの限りではありません。

（注2） ポジフィルム（マウント不要）の方は透明のポジ袋に入れ、これとは別に2L大のプリント入り透明袋と同封で、またデジタルの方は、2L大のプリントをデータとともに透明の袋に入れ、上部に出品点数に応じて①～⑩の番号をつけ、題名（応募表作品NO.1①～作品NO.10⑩と同じものを記すこと）および氏名を油性ペンで書き込んでください（作品に染み込まないことを注意・確認）。

★②記載方法

I： ポジフィルム・デジタルデータ、2L作品
透明ポジ袋にフィルムを入れ、その上から染み込まない油性ペンで応募No・タイトル・氏名を記載し封入、これとは別に2L大のプリント入り透明袋と同封で、またデジタルは2Lプリントを透明フィルムに入れ応募No・タイトル・氏名を記載し記録メディアと同梱。

II： 作品展応募票

応募票作品NO.1～作品NO.10はそれぞれ空欄のないよう必要事項を記入し、さらに原版絵柄と応募票内容を必ず確認してください。

応募点数が10点未満の場合は不要番号に

斜線を記してください。

★③今回メール登録会員に郵送される物はありません。

添付が開かず郵送の要請がある場合を除く)

★④送付方法

I～IIを必ず厚紙を添えて同封し、“宅配便”にて
作品展担当(井上武夫)宅へお送りください。

作品提出締切日： 2017年7月25日(月)

・・・作品展担当(井上武夫)宅必着

※一般郵便では、ポジを破損・紛失する事故も起き
かねませんので、安全性・確実性を重視して、“宅
配便”を利用して応募していただく方法を採用して
います。送付方法は厳守してください。宅配便送付
伝票の”ご依頼主控“はポジが返却されるまで必ず
保管してください。

今回は途中に例会はありませんので、例会での受け
取りはありません。

★⑤作品選定

参加者全員の作品受付後に、展示構成を考慮のうえ
作品選定を行います。作品選定は2017年度講
師・山本一氏(支部長、副支部長、事務局、写真
展担当、外希望者同席)が担当します。選定過程の
事務処理は、作品展担当が受け持ちます。

★⑥展示作品選定通知・ポジ or デジタルデータの返却

※選定された作品は氏名・題名等を一覧にして一斉
メールでお知らせします。

※展示作品のポジ or デジタルデータはプリント
チェック完了後、選定外原版と一緒に纏め、作品
展最終日、撤去作品返却日に合わせてお返し致し
ます。

[註] それ以前に返却が必要な方は作品展担当へ相
談下さい。

展示作品返却を宅配便にて送付を希望される方は
作品展現場にて、着払いの送付伝票にご記入くださ
い。また、梱包費用を集金させていただきます。

(文責： 作品展担当 井上武夫)

“私のお気に入り撮影スポット” 2017年第3回

“私のお気に入りの撮影ポイント”・表題の件を今あら
ためて考えてみれば特にないのかも知れない。あえて言
えば富士山周辺ということになる。

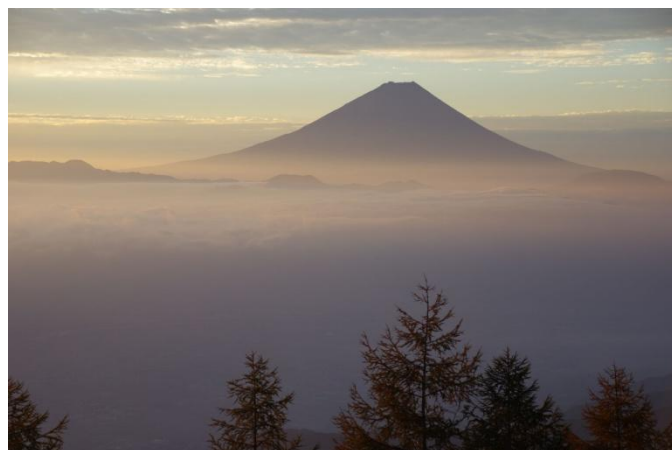
風景写真をはじめたのは迫力のある富士山の写真を撮

りたと思ったのが始まりである。

ポイントといえば富士山周辺であり、富士山を望める
処が私がさがしているポイントであるといえる。

富士山写真は天気によって左右されることが多い、8割は天
気で決まるといっても過言ではないと思う。

あえてポイントとしてあげれば、甘利山、山中湖周
辺で撮ることが多い、その次は楡形山も割りと好きな場所
です。



楡形山で夜中にバルブ撮影していた時、暗くて誰だか
分からなかったのですが、その場に居合わせた人と話を
しながら各自撮影していて、夜が明けて明るくなってか
ら顔をみたら、富士山写真家の大山行男氏だった、なん
てこともありました。

大山氏と天気によって左右されるから、なかなか良い作品は
出来ないなんて事を話していた時に、話の中で九州の方
から天気が崩れてきた様な時には富士山周辺は変化が多
くなりチャンスがある、という言葉があったので出来る
限りそんな陽気の時に掛けるように心がけている。

そう言う撮影ポイントは二の次という事になってし
まいますが、富士山には当然ながら背景も大事であるの
で大観山とか甘利山、河口湖の周り、大石公園等誰でも
知っているような有名スポットでも撮影を楽しんでいる。
花の季節にも大いに左右されるので、そんな事も心して
ポイントを決めている。(文責： 陶山二郎)

事務局からのお願い

FBでの情報発信を試験的に行うために、皆さまから写真を募
集します。9月10日までにお一人1点以上事務局宛にご送信く
ださい。あくまで試験ですから渾身の力作でなくてかまいま
せん。どうぞ、よろしくお願いいたします。

「支部だより No. 18」は9月下旬発行です。(文責： 泉屋)